



経鼻弱毒生インフルエンザワクチン(フルミスト点鼻液)説明書

このワクチンは、注射ではなく、鼻腔内に噴霧するワクチンです。

◎対 象:2歳から18歳まで

◎接種回数:1回

◎接種方法:両方の鼻腔内に 各0.1mL 噴霧します(1噴霧ずつ)

◎接種費用:各医療機関により異なります。(市助成金4,000円を
差し引いた金額を医療機関窓口で支払います。6,000円前後)



★以下の注意事項をよくお読みください。

接種を希望される方は、お子さんの健康状態を医師に伝え、よく相談のうえで接種をうけましょう。

【副反応・健康被害救済制度】

このワクチンはインフルエンザウイルスを弱毒化した生ワクチンです。接種後、軽くインフルエンザに罹ったような症状がでることがあります。主な副反応は、鼻水、鼻づまり、咳、のどの痛み、頭痛などがあります。また、重い副反応としてショック、アナフィラキシー(じんましん、呼吸困難、血管性浮腫など)や、けいれんやギランバレー症候群などの報告があります。

小児のインフルエンザ予防接種は、予防接種法に定められる定期接種ではなく、任意接種です。副反応による健康被害が生じた場合は、医薬品医療機器総合機構法に基づく救済になります。詳しくは、医薬品医療機器総合機構法ホームページをご確認ください。(https://www.pmda.go.jp)

【フルミスト点鼻液で予防接種を受けることが出来ない人】

- ① 明らかに発熱している(37.5℃を超える場合)
- ② 重い急性疾患に罹っていることが明らかである
- ③ 過去にフルミスト点鼻液に含まれる成分で、アナフィラキシー(接種後30分以内に出現する呼吸困難や蕁麻疹などを伴う重いアレルギー反応)を起こしたことがある
- ④ 明らかに免疫機能に異常がある病気で、免疫抑制をきたす治療を受けている
- ⑤ 経口または注射の副腎皮質ホルモン剤で治療中
- ⑥ 妊娠していることが明らかである
- ⑦ その他、医師が予防接種を受けることが不適当と判断した場合

裏面にも注意事項を記載しています。よくお読みください。

【以下の項目にあてはまる人は、医師と相談しましょう】

- ①～⑩に該当する人は、医師の判断により、フルミスト点鼻液の使用を控え、不活化ワクチンの「インフルエンザ HA ワクチン」（皮下注射）を使用する場合があります。医師にお子さんの健康状態をきちんと伝え、相談しましょう。
- ① **ゼラチン**を含む製剤や食品に対し、ショック、アナフィラキシー（じんましん、呼吸困難、血管性浮腫など）などの過敏症を起こしたことがある
 - ② **心臓血管系、腎臓、肝臓、血液疾患などの疾患**がある
 - ③ 過去に予防接種後2日以内に発熱、全身性の発疹などアレルギーを疑う症状がでた
 - ④ 過去に**けいれん（ひきつけ）**をおこしたことがある
 - ⑤ 過去に**免疫機能の異常**を指摘された、または**近親者に先天性免疫不全症**の人がいる
 - ⑥ 重い**喘息**の人、または喘鳴の症状がある
 - ⑦ 薬や食事（**鶏卵、鶏肉、その他鶏肉由来のもの**）で発疹が出たり、体に異常をきたしたことがある
 - ⑧ 発育が遅く、医師等の指導を受けている
 - ⑨ 妊娠中、妊娠の可能性がある人（接種前1か月間避妊していない）、授乳中
 - ⑩ サリチル酸系医薬品（**アスピリン**など）、ジクロフェナクナトリウム、メフェナム酸を服用中

【予防接種を受けた後の注意事項】

- ① 接種後は、ショック、アナフィラキシー（じんましん、呼吸困難、血管性浮腫など）が起こることがあります。医師とすぐ連絡が取れるようにしましょう。
- ② 接種当日の運動は控えましょう。健康状態に十分注意し、体調の変化、高熱など異常がある場合は、すぐに医師の診断を受けてください。なお、入浴は差し支えありません。
- ③ このワクチンは「生ワクチン」です。**接種後1～2週間はウイルスを排出していることから、周囲の人に感染することがあります。免疫不全の人がいる場合、可能な限り接触を避けましょう。また、授乳中の人が接種を受けた場合、乳児へ飛沫等を介して感染するケースも考えられるため、可能な限り乳児との接触を避けましょう。**
- ④ このワクチンを接種後に、インフルエンザ簡易検査で陽性になることがあります。
- ⑤ 他のワクチンと同時接種が可能です。接種間隔の規定はありません。